

熊野森・里山通信

久々の植物観察会がホームグラウンドである 末長熊野森緑地で行われました

植物観察会が、2015年10月31日(土)9:30から末長熊野森緑地で行われました。今回、「里山の会」の会員の参加者は大人12名、幼児3名。日程的に学校行事と重なったこともあり、参加人数の大幅な減少が懸念されていましたが、多数の方に参加していただきました。

今回講師として招いたのは、川崎市緑地公園緑地協会から紹介された「森林インストラクター」の小林さんです。小林さんは宮前区神木在住で、長年植物の観察・研究をされている上に、経験も豊富で植物のことなら何でもご存知の方なのです。まず「種子散布」と「冬芽」という植物の生命力と不思議さを伺わせる興味深いお話を伺った後に、熊野森緑地に繁殖している植物の観察会に移りました。観察する樹木・草本ごとに、その名称、性質、見分け方やエピソードなどを素人でもわかるように、小林さんから一つひとつ手を取りながら丁寧に解説していただきました。

今回観察した樹木・草本は、ツルグミ、アオキ、イヌシデ、ハリギリ、アカメガシワ、ムクノキ、エノキ、フジヅル、シロダモ、ウロジロガシ、ゴンズイ、ビナンカズラ、エゴノキ、ネムノキ、クヌギ、コナラ、ネムノキ、カキ、ウメ、ヤマグワ、サルトリイバラ、ヤブガラシ、クズ、セイタカアワダチソウ、アメリカセンダングサ、キツネノマゴ、ドクダミなどでした。樹木は、思いのほか多くの種類が見られましたが、草本については市の道路公園センターがこの植物観察会の直前に草を根こそぎ刈ってしまった後ということもあり、やや寂しい状況だったのが残念でした。

約2時間の観察会の中、小林さんの話で特に印象に残ったのは、生活に役立つ樹木・草本に関するものでした。たとえば、葉が食事を盛るのに使われたアカメガシワ、葉の裏のざらつきを漆器の木地を磨くのに用いたムクノキ、材が緻密で唐傘のロクロに用いられたエゴノキ、材が非常に堅く粘り・耐久性に優れていることから道具類に用いられたカシ類、柏餅を包むのに用いられたサルトリイバラ、薬草のドクダミ等々。これらは、薪炭を含めて、現在は失われた用途ばかりのようです。時代の変化とともに用途が失われていくのは仕方ありませんが、これらの貴重な樹木・草本を育む里山を大切に保護・維持し、子孫にぜひ残していきたいと改めて感じました。また、今回の観察会を通して気づいたことは、樹木・草本の名称、性質を知るだけで、それらがにわかにな身近に感じられるということです。今までは林や雑草という塊でしか見えなかったものが、一つひとつの樹木・草本に目が向くようになりました。気づく力や観察力が少しは増したかなと感じた今回の観察会でした。小林さんどうもありがとうございました。



「小網代の森」環境保全研修

三浦市三崎町にある「小網代の森」というところは、浦の川を週水域とし、森と干潟と海が一体になった関東唯一といわれる完結した自然集水域生態系の動植物が賑わう地である。今回、「里山の会」の研修旅行として、溝の口駅から出発し、三崎口駅からバスに乗り、「小網代の森」へ。周りを木々に囲まれ静かで落ち着いた雰囲気の中で食事を楽しめる「ひげ爺の栖」で体にも心にも美味しい昼食をとり、今回の研修旅行が始まりました。

今回現地説明をしていただいたNPO法人小網代野外活動調整会議代表理事の岸由二先生は、流域思考(生物多

様性を流域単位で考えること)という観点で、多摩丘陵から三浦半島までを「いるか丘陵」と呼んでいます。イルカの「尻尾」にあたる部分が三浦半島で、ここ「小網代の森」の約70haは、1984年頃から岸先生や支援関係者が長年、生態系を守り環境を保全しているモデル的な場所なのです。一般開放されたのは平成26年7月20日で、岸先生や支援者は、自然共生型都市再生として「開発反対を言わない」ということをモットーに環境保全を進め、地権者、神奈川県、国土交通省と共に活動を続け、成果をあげてきました。その活動は長期計画であり、実働と経験・知識が必要であることを教えてました。ここの干潟で生まれ、海で育ち、そして森へ戻っていくアカテガニが、ここの湿地の木道を歩き崖の穴から出てきた後に、干潟に同期しているかのごとく、まるでダンスをしているような姿はかわいく、私たちを楽しませてくれました。夜になってからは蛍の観察に出かけました。子ども達は、手のひらに止まった輝く蛍に歓喜し貴重な体験が心に残ったと思います。その後、宿に戻り、宴席では会員同士で充実した時を過ごしました。一夜明け、朝市と京急油壺マリンパークへとおでかけ。多くの魚や、イルカ、アシカなど海の動物にも癒され、充実したひと時を過ごしました。今回の「小網代の森」の研修では自然と共生した都市の再生など、都市部に近い私たちの保全活動の在り方のヒントともなり、貴重な経験と会員同士の絆が深まった意義のある研修となりました。(いろは もみじ)



畑たより



畑作業を始めて早や5年を迎えました。良い野菜を作るためには、農家さんのように日々の手入れをしっかりと行うことが、いかに大切かということを実感しながら、農家さんには出来ないまでも何とか学んできた知識で少しずつ良い物が作れるようになってきました。とはいえ、6月に収穫したジャガイモの出来が今までに無く不作で、改めて野菜作りの難しさを再認識しました。しかし、春はインゲンが良く育ち、予想外の収穫量で、夏にはトマトとキュウリの栽培時にカラス除けネットの取り付けが



功を奏し、キズの少ない良い出来となりました。ナス・シシトウ・モロヘイヤ・シソ、またバジルやレモングラスなど色んな種類のハーブ類も少しずつ作り、皆で収穫を楽しみました。現在は収穫直前の大根・ニンジン・ホウレンソウ・シュンギク・ハクサイ・ネギなど冬の鍋料理の定番野菜、そして先日植えたタマネギの苗などが、皆の期待を背負ってすくすくと育っています。(のの すみれ)

高津市民館主催イベントに協力させていただきました

高津市民館が企画の2015年度の「シニア世代のパワーアップセミナー」の1セッションに、私たちのボランティア活動を体験していただく機会を得ることができました。11月15日(日)の月例活動日に、6名のセミナー受講者(元気で知的な先輩方)を招聘し、下記の工程で、緑地保全活動をご理解いただくことができました。

- ① 久保台公園で清掃作業の見学
- ② 東京タワー&スカイツリーのダブル・ビューポイントを見学
- ③ 江戸見桜、ターザンの木の見学
- ④ マンション集会室にて「川崎・多摩丘陵の里山を守る会」の生い立ち、活動概要のプレゼンテーション
- ⑤ 末長熊野森緑地での草刈り・剪定・落ち葉拾い・ドングリ拾い・作業工具のお手入れなどの体験学習

特に、マンション集会室で行ったプレゼンテーションでは、2000年8月の「里山を守る会」設立当時の話や、何故「里山」と呼ぶようになったのかについての代表からの説明や、末長熊野森緑地管理運営協議会会長による活動概要についての説明などをセミナー参加者にさせていただきました。参加者への説明と同時に、私たち会員自身も改めてこの里山を守る会の意義を再認識することができ、より一層「絆」を深めることができました。

その後、全員で熊野森緑地に移動し、樹木の剪定や草刈りなどの活動体験を行い、参加者の諸先輩の方々と楽しく溶け合うことができました。当日

のこのイベントへの協力を通して、私たち「里山を守る会」が、川崎市高津区にもご理解していただいたことは大きな成果と感じ、川崎・多摩丘陵の「里山を守る会」の一員であることに誇りを感じた一日でした。(楓 まあさ)

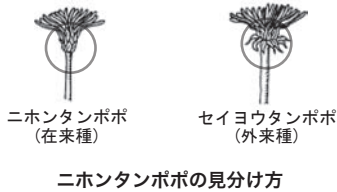


久保台公園まつり

今年も晴天の中、4月12日に久保台公園まつりが行われました。毎年好評な玉こんにゃく、ヨモギ団子、杏酒は今年も多くの方に召し上がっていただきました。「豚汁」は今回初めての試みでしたが、おかげさまでレシピを聞かれる程おいしく出来上がり、心も体も温まる一品となりました。材料のヨモギや杏は「里山の会」の活動場所である熊野森緑地に自生しているものを使い、豚汁の大根も「里山の会」の畑作業で採れたものです。また、今年は「エンゼルランプ」というボランティアグループの方のご協力のもと、紙芝居やけん玉とベーゴマを学ぶ「昔遊びコーナー」を設けたところ、最近のけん玉ブームの影響もあって子供たちに大人気でした。「紙芝居コーナー」では、臨場感ある語り口だったので、座って聞いていた子供たちのみならず大人までも聞き入っていました。「フリーマーケット」では、手作り小物から炊き込みご飯、洋服などと多様な出店となりました。最後に希望者を募り、ターザンの木・江戸見桜の見学ツアーを行いました。見過ごしてしまいそうな木々ですが、説明を聞きながら眺めているとその雄大さや生命力をひしひしと感じました。身近な隣人と顔の見える関係を大切にしたいとの思いから発足した「久保台公園まつり」も今回で9回目となりましたが来場者も増えたように思います。改めて、近所の方々との交流の場として一助となっていれば幸いです。



日本タンポポ保全と看板作成



久保台公園からターザンの木へ向かう歩経路は秋冬になると落ち葉が多く、踏みしめて歩くとフワフワしていて気持ち良いところです。そこには夏に向かって雑草が多くなる前の春の頃になると、かわいい蒲公英(タンポポ)があちこちに咲き誇ります。これは珍しく自生している在来種の「日本タンポポ」で、稀少植物になりつつあるものです。

私たちはそこを通る人に改めて、その存在を知ってもらい、また楽しみ大事にしてもらおうと願い、写真のように看板を掲示しました。同時に川崎市の道路公園センターに舗装工事の計画立案しないようお願い書を出して日本タンポポの自然を守る活動をしています。(喜多)



「川崎・多摩丘陵の里山を守る会」第15回総会と定例活動

川崎・多摩丘陵の里山を守る会は、毎月1回、里山活動と称した定例活動として十数人程度で集まり作業しています。

春はウグイスの鳴き声を聞きながら、そして新緑を浴びながら、雑草刈り、アズマネザサの刈り込み作業、夏は汗をかきながら、勢よく伸びた草木と格闘した後、休憩時に木陰の心地よい涼しさに喜びとありがたさを感じています。秋は枯れ葉の片付けをしながら、ゴンズイなどの赤い実や紅葉を楽しみます。冬は大きく成長した木を頑張って伐採します。里山は人が営みながら、作り上げていく雑木林でもあり、コナラ、エノキ、エゴノキ、クヌギ、シラカシ等の生えている位置、本数、高さを考慮しつつ、熊野森らしい里山を作っています。

また、第15回総会を5月17日に定例作業の後に開きました。里山活動中は、作業に没頭し、なかなか長期的な展望を話す時間がありません。今回も定例活動後に総会を開き、1年間の活動予定を確認できました。昨年度までの毎木調査(どんな木があるか名前、大きさを調査して、地図に落とす)と木札つけが、一段落した今年度は新たな計画を作成できました。今年度の主な計画は、里山体験に出かけよう、植物観察会をしよう、日本タンポポの保護を呼びかけよう、畑の体験学習を続けようとなりました。また、定例活動では、私たちの活動場所の作業に追われがちですが、地道な活動をさらに発展させ、孤立化して点在している川崎の里山や多摩丘陵を守るための活動に繋がるようにしたいと思います。(やよい もも)



【定例活動と第10回久保台公園まつりのご案内】

①里山活動……第3日曜日9時半～(※第3日曜日が連休にかかる時は日程変更します。ホームページ参照)

②第10回久保台公園まつり 4月23日土曜日午前10時から午後2時 雨天の場合は4月24日に順延

★平成27年度会費の納入をお願いします。

振込方法

① ゆうちょ銀行での場合

振込口座 記号:10260 番号:63488511

名前 カワサキ タマキュウリョウのサトヤマヲママルカイ

② ゆうちょ銀行以外の金融機関からの場合

振込口座 店名 〇二八(読み ゼロ二八)

店番:028 預金種目:普通預金 口座番号:6348851

お楽しみに♪

川崎・多摩丘陵の里山を守る会

【問い合わせ・連絡先】

URL <http://www.k-satoyama.org>

E-mail info@satoyama.org